1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4071602496
法人名	有限会社 モク・コーポレーション
事業所名	グループホーム銀の庵
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市北野町今山1104-1 (電話) 0942-78-0378
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年10月14日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	9 人
常勤	4人, 非常勤 13人, 常勤換算 9.9人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築/改築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,130 円		

(4) 利用者の概要(平成21年9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	蒲池医院、田中内科医院、石田医院、ともぞえ歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者が通所介護や訪問介護のサービス提供の中で、在宅生活困難な利用者家族の強い要請を受け、平成17年に設立したホームである。ホームは近くに田畑の広がる農家の多い住宅地に立地し、新築平屋の建物である。地域社会の受け入れや協力が大変良好で、自治会の一員として地区の清掃活動や祭りに参加している。散歩の折には通りがかりに声をかけてもらい、近隣の方が野菜持参でホームを訪れ、お返しに手作りおやつを配ったりして昔ながらの良き近所付き合いが行われている。利用者の家族には数日宿泊する方、面会に来て昼寝をして帰る方もおられ親密な関係ができています。また、安全新鮮な食材を使用して美味しい食事を提供している。利用者は言葉もままにならない重度化した方もおられるが肌や顔色が大変良い。職員の離職がなく、チームワークも良く職員も多く配置されており、細かい心配りの行き届いた暖かい介護がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて運営推進会議や職員会議で報告し、早速職員間で話し合い具体的な改善に取り組んだ。成年後見制度などの内部研修を行い職員の理解を深め、必要な時に情報提供できるように体制を整えた。同業者との交流は未達成で、今後の課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員会議で意見を聞き、管理者と介護支援専門員がまとめを行った。会議の場だけでなく、日常生活の中でもケアについて話し合う機会となり、サービスの見直しや新たな気づきにつながった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族代表、地区の区長、老人会役員、民生委員、隣組長、行政の担当職員等の出席で2ヶ月に1度開催している。ホームの現状や利用者の状況、行事や研修等の計画や評価報告を行い、意見を聞き質問に答えている。ミニ学習会を行い、利用者や出席者が会話する場を設け、昼食を共にしながらホームを理解してもらう取り組みを行っている。包括支援センターや市の担当者とは連携して相談助言を受けたり、利用者の紹介を受けたり、情報交換を行いながらサービス向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	毎月家族へ写真を添えて便りを出し、利用者の生活や健康状態を報告している。またレシートと預かり金収支報告書を同封している。緊急時や大事な事はその都度電話連絡を行う。家族会では苦情や意見は聞かれず、家族代表に運営推進会議に出席していただき、意見や要望を聞いている。家族訪問時は職員が利用者の状況を伝え積極的に話を聞くよう務め、出された要望には職員で話し合い迅速に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の自治会に加入し、職員が地区の一斉清掃や公民館・お宮の清掃に参り加している。草取りなどには利用者も参加し、秋祭りに出かけた。地区の若者が祭でホームを訪れて交流している。地域住民の受け入れや協力は大変良好で、通りがかりに声をかけてもらったり野菜を頂いたりする。お返しに手作りのおやつを配ったり、介護の相談を受けたりして自然体での地域交流が行われている。運営推進会議にも多数の地域の方に参加してもらい、近隣との災害時の連携協力体制も整っている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民と連携した福祉作り、自立してその人らしく生きていくための支援など分かりやすい4つの項目に表し、豊かな老後の生活を支える理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関以外の各所に掲示し、それぞれの介護の場面で確認できるよう工夫されている。管理者や職員は会議や日頃の関わりの中で話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地区の一斉清掃、公民館やお宮の清掃に参加している。草取りには利用者も一緒に参加し、秋祭りに出かけたり、地域の若者が祭りでホームを訪れたりしている。また地域住民から気軽に声をかけてもらい、野菜等を頂いたお返しに手作りおやつを配り、介護の相談を受けたり地域交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価は職員会議や運営推進会議で報告し意見を聞き、すぐに改善に取り組んだ。自己評価は職員の意見を聞き管理者と介護支援専門員が作成したが、会議の場だけでなく日常ケアの中で話し合う機会となり、サービスの見直しや気づきにつながった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、地域の区長、老人会役員、民生委員、隣組長、行政の担当職員の出席で2ヶ月に1度開催している。ホームや利用者の現状、行事、研修等の計画や評価報告を行い、意見をサービス向上に活かしている。利用者とは会話する場を設け昼食を提供し、ホームを理解してもらうよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の申請や事故報告などで市の窓口を訪問し、情報交換している。また市の担当者とは電話で連絡を取り合い、相談助言を受けたり問い合わせや質問に応じ、共にサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する資料や関係機関のパンフレットを準備し、職員研修を行って理解を深め、必要時に紹介できるよう取り組んでいる。現在は成年後見制度の必要な利用者はいないが、今後は利用開始時に家族へ啓発支援を行う予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月各家族に便りを出し、写真を添え利用者の暮らしや受診・健康状態を報告して行事の案内を行い、レシートと共に預かり金の収支報告書を同封している。家族の訪問時には管理者や職員が日常の様子を伝え、重要な事や緊急時には電話で連絡を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や親族などの訪問時は、職員や管理者は積極的に話を聞くことにしている。敬老の日に家族会を開催しているが苦情や意見は聞かれず、運営推進会議に代表に出席していただき意見を出してもらっている。出された要望等はすぐに職員に伝え、検討対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時から結婚以外の職員の離職はなく、法人間の職員異動が1回あった。3ヶ月の猶予期間を設けて異動先と交互に勤務を行い、影響が出ないように対応した。異動した職員はその後もホームに遊びに来ている。家族には訪問時に異動を報告している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者や管理者は、職員の採用に当たっては性別や年齢で排除することはなく、利用者と良い関係を築き長く勤務できる方を採用している。それぞれの個性や能力を発揮できるように希望に合わせた勤務体制を組み、年次休暇消化も可能で働きやすい職場環境づくりがなされている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に自主参加した職員が報告を行い、資料を回覧して情報の共有をしている。管理者は関連施設から講師を招いて内部研修を行い、日常ケアや言葉づかいなどについて常に話や注意をして、意識化するように取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の内外研修レポート提出と職員会議での報告を義務づけ、職員の資質向上を図っている。また、職員の段階に応じた研修や資格取得を奨励、研修参加の勤務調整を行い支援している。新人教育には管理者が精神的ケアを中心にマンツーマンで指導に当たっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型グループホーム部に所属し、管理者や介護支援専門員は2ヶ月に1度は委員会や勉強会に参加している。しかし、同法人内の関連施設との交流はあるが、職員の地域同業者との相互訪問などは行われていない。	○	グループホーム部会のネットワークを活用し、管理者・職員が他事業所との相互訪問や見学を通して情報交換を行い、事業所のサービスの質の向上を図ることが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用中のデイサービスや施設へ管理者が訪問して顔なじみになり、ホームのデイサービスに来てもらったり、1週間ほど体験入居サービスを利用し、本人や家族が納得して入居するしきみを整えている。入居後は好物を用意して声かけや見守りを行い、添い寝をするなどホームに馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添って過す日常の関わりの中で職員は人生の先輩として利用者に接している。言葉が出にくい利用者から「ありがとう」の思いがけない言葉を聞いたり、「大変ね」と励まされたりすることがあり、心のふれ合いや仕事の生き甲斐を感じている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で発する言葉や利用者同士の会話に耳を傾け、思いや意向の把握に努めている。思いを上手に伝えられない方は家族や関係者から情報を得ると共に、表情やしぐさ等から思いを汲み取り意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式によりアセスメントし、日々の暮らしの様子や他の職員からの気づき等の情報提供を受けて本人や家族と話し合い、その時点で添った介護計画の原案を作っている。その後に職員会議で意見を出して話し合い、本人の意向が反映された介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標は3ヶ月に設定し毎月モニタリング会議を行っている。心身の状態変化の兆しに予防的に対応できるよう情報交換を行い、評価と現状を把握して介護保険認定期間ごとに更新している。状態変化が生じた場合は医療関係者から情報提供を受け、本人、家族、職員等と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院介助や入院時の見舞い、退院時の出迎え、家族の宿泊受け入れや食事の提供など、本人や家族のその時々々の要望に応じて臨機応変に柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの医療機関への継続利用を優先している。職員が受診支援を行い、家族、全職員共に受診結果に関する情報を共有している。月2回協力医療機関の往診を受け連携を図りながら、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族等と医療関係者、全職員で話し合い、重度化や終末期に向けた方針を共有し、その都度家族等の意思を確認しながら最終決断を尊重して支援することになっているが、これまで終末期ケアの経験はなく、具体的な受け入れ方針等はこれからの課題である。	○	重度化した場合や終末期のあり方、ホームでの対応についての具体的な方針を、できるだけ早期から本人、家族、かかりつけ医等のケア関係者と話し合いの機会を持つことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者や職員は利用者に尊敬の念を持って接することの大切さを共有している。訪室時の挨拶や言葉づかいなど、プライバシーや自尊心を損ねない対応の徹底が図られている。記録等の個人情報は事務室で管理、保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、これまでの生活リズムで過せるよう起床から就寝に至るまで、その日の気分や体調に配慮しながら、本人が心地よいと思える暮らし方を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭き、お茶碗拭きなどを手伝い、職員は利用者と一緒に食事介助をしながら同じ食事を食べ、楽しく会話しながら食卓を囲んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の取り決めはなく、利用者の体調と希望を確認して毎日入浴ができるように個別に合った入浴を支援している。入浴を拒否する利用者には一人ひとりの性格を把握して声かけを工夫し、入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、リビングや居室の掃除、カーテンの開け閉めなど一人ひとりの力を活かした役割を分担している。できそうなことは頼み、感謝の言葉を伝えて支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や体調に配慮しながら近隣を散歩したり、庭先の花を見ながら外気浴をしたり、季節感を肌で感じてもらっている。リハビリを兼ねて日常的に出かける機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが、日中は玄関、窓など全ての出入り口は開放している。職員配置も全利用者を見守りできるように工夫している。地域の方には見守りや声かけ、連絡などの協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て昼夜を想定した訓練を行い、記録に残して評価を行い次回の訓練に活かしている。地域の方との連携、協力体制ができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に記録して把握し、嚥下状態や好みなど個別に合わせた支援を行っている。ゆっくり食事時間をとり完食できるように支援し、職員は情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓は開放されており風の通りもよく、暖かな太陽の光がリビングを包んでいる。各所にくつろげるソファが置かれ、廊下やトイレ、浴室など必要な所には手すりが設置されている。手作りのカレンダーやその時の状況が思い浮かぶ行事の写真などが飾られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は洋室と和室があり、写真や趣味の作品などが飾られ一人ひとり個性のある居室作りとなっている。思いのこもった物品や馴染みの家具、嫁入り道具の鏡台、タンスも持ち込まれ、本人が安心して心地よく過ごせる生活空間となっている。</p>		